文本

坎四
雜六

夫木和謌抄巻第廿四
雑部六
題
○河　渕　瀬　沼

河
六帖題山川　衣笠内大臣
山河の淀ちかよふそこれ岩さゝなよとめる水のまよひつゝ
月井せき　正三位知家卿
山川のせきれぬ井をへてもて水をせきとる
月うさかさ　民部卿為家卿
うきこて世のめくる河をかへしゝをやゝやまくの峯おろし
初瀬の子て　未増恵　西行上人
川の恵あるそのまゝ川の流をやもなみよらに岸きこ
洞院摂政家百首五月雨　常盤井入道太政大臣
五月雨はふるにまかせて成しよりまさこかくれぬ河

文永六年毎日一首中

民部卿為家

さゝ波やしからの浦風みつさらて更行かせにさえて月影ひ

中務卿親王家五十首哥合

前僧正隆弁

比ゑの浦の深川ふかくて志かあひ見て行みえぬもの

永久四年百首

源兼昌

ゆふさらはをしねみそかいまさりつゝわかれ雲ま(に)なるゝさま

后宮百首中 人家

後九条内大臣

冬きの木の下きよはまさこかいつゝ山もとくたちそはむ

承久四年卒余百首海路

民部卿為家

今文波ちの家は成よりたえへよ出しきみの浦

家集秋花映水

源仲正

風ふけて野河乃かはのかけていつるさへ浪のせにうつ浪

あらそひけらしよ人のかきてなみたしよめまる

後頼朝臣

うれしやかれきのかけにやとるさへあらひをみつもよしまし

古物語哥或物語也之

よみ人しらす

あさぬれぬかきてものまとろ我みゆやわかしまねやみ世に

家集尾中にしかをのかきつあ

小大君

天の川きてゐのまとろあまつ星はそのかはかみにきゆ

承安二年廣田社歌合 眺望

俊恵法師

雲のゐるみねまて入小初瀬のきえわたる天河原よこきりてやたなひくらむ

此歌判者俊成云彼張博望之河乃牛漢浙

十万里といふなる所にて侍るにや

天河やそのかみもしるきそてなれやよその月をみるらん

此歌猶非名所也 源師光家歌合 歌苑抄同

河邊霞を

ふる川人をみちにやまかせいかにみえさるらんなまの河波

権中納言長方

老雅山庄歌合

藤原家経朝臣

あさのかはみきはもしらしき松風にふきのこすらん

千五百番歌合

第三のみこ

天の河水をきくさのうらのなかきいそのまゝにて松風そふく

文治三年右歌雜歌中

前中納言定家卿

さゝなみのわかるゝ波のいくよにかあまのわたしの秋をこそ

但馬温泉へくたり侍りて

民部卿為家卿

あまそゝく苔のいしかは（かはせ）ながれいてゝまたさきにすむこの山

文治六年五社百首 泉川 山城 又通山

皇太后宮大夫俊成卿

さみたれは上まさるらしいつみ川かさきの山もくもかくれゆく

正治三年百首

土御門内大臣

けさみれはやまそかすみのたなひきてみかのはらをそてらしけるかな

堀川院御時百首　仲実朝臣

いつみなるしのたのもりのしつけはは色ことにのみかはるなりけり

和泉式部

家集　古来抄

とりの川の水のこゝろの杉むらはよふかき涼し秋きての杉

家隆卿実定右府御障子

大蔵卿有家

秋の色やこのもいつみにむすひきて露の玉の井のかけ

題しらす　よみ人しらす

百七　長哥

おほよそら山をさかていつみ川きよきなかれにすむつるてよ

拾遺　同

泉川にはなれにし流りけるいはなみのたえぬ人の心を

山の井の底まてよかりけるいつみ河ふるきやみるよりかけらん

泉川にて作哥中　同

百九　きこえつれわたり流のはまこひはみてまきましこの川のせよ

題しらす　よみ人しらす

百十三　いつみ川まつろせわかみせむせこゝろひとつ衣はおもきおもらんを

播ア宮孫老丸

長哥

百十七　いとの河乃みつせよ　うち橋わたし

よとせには浮橋わたし

百十三　天地とあひなかれ出てまきそめろ　泉の川の

あやさせ　さゝらさ流り

題しらす　泉川にて氷趣中

百十七　朝とくきけそもろし泉河おさこゝき出ておそきなる人

百首哥の中

慈木田民良

卯花の波をこゆふいせき川の名にやあきなきらん
家集にはいまていせき川とすとて「鏡前」細字
為頼朝臣
海山をみちかえをはみかきかなはさら川はなかつむや
石名氷いそれゐ河瀬」細字　三位卿
後一条入道関白
冬枯のいそれゐ河やこかれ年いをはまに草をかさま　次
なり
夏けりす「石河山城又石町」細字
五十九　なくともまるまにていしなれの川とおもえさる
よみ人しらず　次
五十三　あまたちく逢もなをしてなにはまてこまをとかめもたなれ
洞院摂政家百首「いさや河不知と逝江」細字
大納言經通

わかされせきの河をされはさやまりて毒そえ
題不知　　[illegible]天皇御製
百四　はなみちれ席の山へおもはし河こもとろくへひふつらん
文治三年百首いたたの「稲津」細字
前中納言定家
いつみかきのそこのみさくいくかの川まかせをつめん
貞応三年四季百首冬川
民部卿為家
みなせの山のあさしをこほりし生田の川の水をは
百首哥　本家
前参議基隆
新続古雑下
入家　津の国のいく田の川の上しまてもえみをつめ布引の滝
弘安三年百首いとうち河「末国」細字

後光明照院内大臣

波かえれ見へりて秋ふかき川よ風にさむけき夜をきさすり 遠山

六帖二百
題しらす　よみ人しらす

みなと入のまつよゐかせに川波のさわりかねをたちかえりつゝ

□□新撰百首　岩瀬河「未国」 細廿二

後光明照院内大臣

中にあれものゝあはれやいかならんいかにみかいの寒のかせ風

出雲の川我氏宮に住ていつも河の秋にかわりて

寂蓮法師

いかの川あるきみちよ行来はたゝのつみにかきは

永保三年十月源經仲朝臣出雲國名所歌合

禖子内親王家中務

出雲川たえにし水のなかにすみてこそ深き来まの月かけ

正平二年百首　いつぬき河を「の」 細廿二

新千載
後京極摂政

むしろ田のいつぬき河のさきまてもみよしき入露やかわる代のあき

法橋顕昭

むしろ田のいつぬき川に年をへてくれなゐふかき露見え

寛喜中　秋雑　いなせ河「因幡」

六三の
秋風
いなせ河いはねとしはらはいひそていなせてせよあきをもしと思ふ

よみ人しらす

題しらす　いくとの河「未国」

よみ人しらす

新勅撰
あさしとていくとの河にそゝきをもこす恋しき人にまかひみて しつ

同懐中 いさら河 常陸 同

世をわたる人をなきせにあやまたすいさらの水もゆきもやせぬ

同懐中 いさら井川 近江 同

わすられぬいさら井かはの水すみてもとの世の千すみてまろる

家集 経宣朝臣

くみもせすなかれもまさるよのなかにいさら川のそこのさやけさ

題しらす いさら川 山城 或常陸 備前

ゆくとしをたちかへれいさら川かはらのさていさり 行

よみ人しらす

家集 いさら川 紀伊 忠盛朝臣

いさ人のいさら川のもとさくらいつかひとみの色なき 行

題しらす 泊瀬河 大和 人丸

はつせ川はやくのことしらすしてくもにとまれるみなかみのくさ 行

よみ人しらす

初瀬川白ゆふはなにおちたきつせをさやけみと見にこしわれを [萬葉 摂津 雑上 同]

はつせ川なかるゝみをのせをはやみゐてこす浪のおとのさやけさ [同]

三輪川 大和 大伴大夫

みむろのやまのもみちはをさそふ三輪川のはやせにちれる

題しらす よみ人しらす

はつせ川ふるかはのへにふたもとありしすきとしをへて又もあひ見む ふたもとある杉

おりつゐてそのえきの...かをかをとめ... [そ歟]

千首哥 民部卿為家

おち滝津せをはやみかくるゝ花のかけもなくはなのそのゆふ風

六帖題　　衣笠内大臣

かくれぬのはつせの河のかはくまに神さひたてる杉は二もと

家集建保百首中　　信補朝臣

はつせ川ふるかはのへにあさゆふにしらゆふしてゝなみそたちける

長方

はつせ川ゐせきのしからみかけとめよ　よみ人不知

くりかへしなかれてもみむ　ゆくひとのかへるさまてに

まつひまに　まつはるかにて

長谷寺にまうてゝ侍けるに　しかまの橋をわたりて

大和

はつせ川ゐてのしからみかけとめよ

中納言兼輔

かはかせにさやけきあかつきのつきもよるさへみゆる

新勅撰集大井川「遠江」　中務卿のみこ

大井河みなかみとほくはるかなるかなたの山のなかれかは

遠江のうみにうかへるふねのみかさきの

光俊朝臣

わか道のなかれはたえしおほゐ川

六帖題　大井川「相模」

信実朝臣

新古今　大井河ゐせきにかゝるしらなみの

安嘉門院四条

東路のゆきゝのさとの　かはなみに

ひとりゆきかふ山なかの里人のゆきかひのみちのへに

もてされいてふみにもまたやり川と云河の流になん申
本のもなくなる所をいふとそいふあまの堀すなる
すとそ

題しらす　坂上郎女

万七
うつゝにはまたもえ見ゆ河のせにせくとせくとも又逢はん

同　よみ人しらす

まやかはのせにすなるみのゝかとゝまるをかなひてわりしまうこゝかもわ

家集　躬恒

かすかゝるちりかめのまき柳のいとらふくなそいみよらん

題しらすのうた「丹生大和」

よみ人しらす

万七　新千載二
まかみのまきさる子すてゝすみなのかはもといかよふ人とふ揺かわかよし

家集川上歌合　権中納言長方卿

いさゝかにしきおもけてくるすめりみよの川上紅葉ちるらし

弘安百首　常盤井入道太政大臣

かは人のまきのはをたてゝよるかたの五月雨の比

実方朝臣家集にしかは「山城」

藤原義孝

ひとのうらむるにくきもなしみのほとにはいにしへをもなくらん

正安大嘗会主基方のうた「安保近江」

宣仲卿

もろ人のよろこひとのへくむさみあかいせのきくの下露

かしかは「未国」

光俊朝臣

あまのかはとそそらさらしかしかはにてまきさかきやみさすめん

此哥家集云鴨社にまうでてよみけるよかり
かはしたまへとゆりてわかやきたちそこしあめとて
題をとりて「かり川山桜」小字 よみ人あまた
かり河のせにかけにはしめて又あまたおもひはしまつれ
こやこそかりぬの桜木「小字」

衣笠内大臣

みやこ人あまた[illegible]小倉山の[illegible]よ

建長八年百首哥合[illegible]「小字」

同

いもせ川との[illegible]のせきとめ[illegible]

百首哥のとこの山川「近江」小字

前大納言基良

近江路のとこの山なみをたてもよろこの世をのまもる

八幡宮哥合河上霞[illegible]「大和」小字

家長朝臣

とどろきの[illegible]人やすみ[illegible]年をのまもる神そちて

建保四年百首

同

五月雨にむらひのきしれは[illegible]

七百首哥隠居

権僧正公朝

みよしの山のあきさの[illegible]川[illegible]世代

承安二年閏十二月[illegible]哥合隠河慈

藤原範季

伯耆川 大和「小字」

とまりせの[illegible]

家集祝元年 在冨緒川

丹波又大和河内「小字」

源有仲

あきすさむとみのをかのこゝろいくとさして玉ゆらそつゝ

題しらす　拾遺「武蔵上野」小字

よみ人しらす

いさ河の下にかくりてもえしとみてもけつかれぬきおもしくや

六帖題　とよ川「三河」小字

衣笠内大臣

かり人のやそきるまちとひ宿りをのいわとやそとさんとよ川の淀

雑五十首　よりさし河内

中原師光朝臣

天れしてやとかりのしの岡胡蝶によるも毎よなやた

内ちくま川「信濃」小字

中納言兼輔卿

せきもとのしのもめそしちくま川たこゝろのことも世ひたらめ

題しらす

よみ人しらす

信濃なるちくまの川のさゝれ石も君しふみてはたまとひろはん

洞院摂政家百首　ちくま川「信濃」小字

光明峯寺入道摂政

君かためかきりをなおしらせ給ひせきまのみのはるかとゝ

家集　ちくさのかけ「丹波」小字

顕仲朝臣

ありあけのちくさのかけくは我ねる雲もいつくそさしてはな

建長八年百首歌合　ちくま川「信濃」小字

衣笠内大臣

まつ袖をわきにはそかつくね　ちくま川のまの葉のみたそのこ

山階入道左大臣家

従二位行家

水上にあきのこほりてもやけきにあかのかき川の流そさらさむ

題不知「いはやしろは八雲抄に石河とあり不在之」

人丸

あさりえわかや河邊のしのめすひもまけは家よみそかり

長久二年四月七日弘徽殿女御家歌合「水」をとも

川「山城」

読人不知

みそきかはとちとる人を神まつてまつるもりはこたりきそ

御集「山科」

法性寺入道関白

せとかは岩瀬をおとすをちふねをかしこきそすくる

年多

家集雄神河「越中」

修積朝臣

をかみ河紅にほふをとめらしあしつきとると瀬にたゝすらし

題志らす

よみ人しらす

さゝのくまひのくま川に駒をとめてしはし水かへかけをたにみむ

承安三年閏十二月東山哥合 隅川 恵

平経正朝臣

志らかはやせゝ河のなみもさやけきあかつきをまち

此哥判者清輔朝臣云すゑのはいかさまにかあらむ

なるはへさらぬいさゝのかはとよめる事は万葉集に

一首侍る何の里とも見えす みゆるかにも志らすと

またて河とふ事なすにみえて侍るめり 川はそ

もしいまのたゝめといふ詞なくは此流き

しくみえける事のなけれはいかにおほつかなし歟

せとそ

家集「度會川」「伊勢」

祭主輔親

志らかくさわたるひかりあるへくはかくの水の末すゑわかれ

同まき河「甲斐」小字

わきもこをやまちかねてまき河のよそにのみなかれつつ
忠峯　今

題しらす
読人しらす

六帖三
忘河よく道もしらすてしらぬふのよこはさしもらんをも
藤原為隆

若宮宮中

枝集
うなへ人まきさまきてまさすまさりかへさゆすよすかうのさきたえ

堀河院御時百首「橋川」山城」小字

かつら川てる月影のさやけきにまさるすむさへそまさりける
権中納言師時

家集

よろつよもすめるかはへのさきのみすなもてすく御さき
實方朝臣

御集「かも川　山城」小字
後院御製

合首　賀茂川
かつら川みものはやしのみなもとのかけもちかはしりける
家集
頼

ちはやふるかもの川かせよるさむみあさなみこえてこほるらん
家集五月雨
家長朝臣

かも川をわたりかねてもさみたれのころのなみたにかよふるの比
四季百首のうち
慈鎮和尚

身はなをさもしこそしらねわたらんすゑのさかひもとの神のみゆきの川ならん

題しらす
読人しらす

萬葉
かも川のちらせる川のなかれてもつきせすなつのよはぬらむ

大治三年八月廣田社歌合月述懐「ちはや川」小字
神祇伯顕仲

かみかけて月そこそえてしつむひとのなかれのちり[illegible]

うらむすよこし人きうた

新勅 川とひし物をふかみの流れくそを流しみつの哉

同 紙屋川 山城

六三 かはまてゝとまるおとせぬ神やかは瀬々のちるもみち葉

天喜元年八月頼家朝臣家哥合

同

遠近のさとも柳にうまるくてあらぬせをみるかみ河

題不知 讀人不知 かくせ川 未国

同

百十一 かみ川ふのいはうちこしのかはせにかへて君かな

文永二年寺合 かこの川 未国

民部卿為家

旅人のにほふしけらすむさし野にたちかくれなきこぬ河を

海道宿次百首 さかせ河 相模

参議為相

うらまさすいもやちひのくせ河

題不知 吉野河 大和

讀人不知

百七 よし野河いはとかしはのときはなるわれはかよはんよろつ代までに

同

柿本人丸

百三 八雲さすいつもの子らか黒髪は吉野の川のおきになつさふ

吉野の宮に御幸時 長哥同

百五 春へには花かさしもち秋くれはもみちかさせり

ゆふ川の神もおほみけにつかへまつるとのほりせに

うかはをたてしもつせにさてさしわたす山河も

五

長哥　幸吉野の宮の時

やすみしゝ我おほ君の　かむからか　かしこきをすさと

よしの川　たきつかふちに　たかとのを

よしの河を　笠金村

百八 山たかみ花のちりかふこのもとはさくらさきみねをあらしかも

建暦二年仙洞廿首　前中納言定家

みよしのゝさくらの春の風にさそはれてみよしのゝきさ

求集

吉野川いはせのせきをこえてゆくやまかせにみたるゝ玉水(乱)　俊頼朝臣

此哥ハこみいりけり道なくてみ川の此

まくらに哥に見しけり　水上落花

吉野川　みちよしの落花　はなのなかれよるせやまちかきしら雲　従三位頼政卿

六帖題　衣笠内大臣

山吹の花にはさりし吉野川いはせによせしうかへる

いはぬ色の河の名よりなけしける吉野の川をふかく

建保三年名所百首御哥　順徳院御製

吉野川はやきせにみくものいはもちてゆく　家集よし川　山城　光俊朝臣

をちかたのきりもさはれかし川せにかけ

吉野川の水をきよみまさりみなみちにみる

内　赤人

よしの川水をきよみいかにまさるらむ

六帖
わかなるとの川せにまさる浪ならてもかてもなにかわか　たまき

貞応三年百首　民部卿為家
船とむるとの川浪の朝ほらけ霧まよふなかにきこゆる人

建長五年毎日一首 詠中　同
山さとの堤の白きかはらなみよるよるよとのわかれ人

嘉禄二年百首　同
さみたれはさしもはやくなかれきてみなかみ遠きよとの川なみ

文応元年七社百首 石清水　同
太山よりおちてまさる宮ちかはすゑもやよとの河波

洞院摂政家百首五月雨　従三位行能
五月雨はよその水かさもまさりてもろこしまてやよとのわたりの
よとの渡りにてよめる　読人しらす
河かみのさやき瀬にてよりすみてそみそてぬきよとの川　松屋

題不知　よしの川　春日　大和
万十三
ゆきもこまもとまらぬのよしの川たえぬなかれをいつかとらん　よみ人しらす

千首哥　民部卿為家
世の中をなにかつねなるよしの河ちよにかはらぬなかれくむ神

嘉禄元年五十首哥中擣衣　近江 小字
さゆる夜のよしのの水の音ならすなかれてもこのよの

社頌

みつかき河きよきのせゝきさまもへはいのりくるすは君きさ　かめ人よしは

すゝしてはいあつさの河水にこゝまとむかし此にすさあきさ

石清水若宮哥合　海邊霞

後三條頼政

朝まさき霞のたなひきもしはなあつさの河をはるゝ舡人

玉しは玉鈴河　讀人不知

さ傍きまこの河上に家ゐせむまとゝさやさしをゆくなすあき

同

同　河玉

まつ風かたはなよ川よあきはつとなかせるこゝゐるもとも

保安二年閏五月膽大臣忠家哥合

神祇伯顕仲

ちらせや玉鈴河よ袖をらてあさせのよよ思ふ日のよ

家集社寺合　従二位家隆

玉しほやおもしくれなゐの河柳下葉うちちり秋せそく

寛治二年百首川

後九条内大臣

みましはやこの川上の柳ゆけあつてまちゆせむねけそなき

嘉元三年百首川　参議為相

されも玉鈴河の河波をかりけよ宇治は悲そのとあき

讀人不知　催馬楽竹河　河内或大和伴

竹かはのそのはしのはなその玉れをとめさしたく

前中納言定家

はま又あさゆきてらん行ふやむしとまきくさもすみよしの山

述懐百首　あまつをとめいそ　「近江」小字

俊頼朝臣

たえせりせくあまつをかいのとこあまよりふ思ひよかまくりせよ

家集　玉ツクリ川　嘉応　元輔

いくちよふひきてみよよききよゆ子みなれもたくりかくと海人もとらん

影しらぬ　雅仲　よみ人不知

ひとりして萬代てらす月のそこまみたり玉たれる河

同　たまかし　袖集　同

みちあくわ花らのたこれよ寺するすまり河せやあつとこたまて

同　あをせ川　「山城　或河内　摂津　又安房　又上野」一行小字

同

かきりなく我きとむの春ま水をたはにはもとむらん　近

家集　信実朝臣

あさくらせのかはの波かけ千年やまきのみそきとる

御集　「さすの川　敏」小字　近衛内大臣

風ふけはあらくものなみよきくのなみかけてみそきとる

建長八年百首歌合　あまくせの川　「未国」小字

あまくせのからせのみねきよみてたそのよあまもと

永保元年大嘗会主基方屏風　「近江国」小字

前大納言殿胡

前中納言資房

あつきれるあゆやき河の底きよみのとけきよのか

貞応三年百首　そのかい　「遠江　又下野」小字

民部卿為家

汀なるいはねのまつに苔むしてきよきその川はなほすみけり

承久二年四季百首そめ川に「筑前」

従二位家隆

山風のふくもみちはの色に出て又いくしほかそめ川の波

続集そのかは「山城」

衣笠内大臣

都をはかすみとゝもに立きつゝ旅ゆく人も袖のかはきりはたちそひ

冬三十首中ゆくさか「遠江」

恵慶法師

ゆく河入江をわたるゆふしほにかはらぬ松もはるかなる哉

題不知

よみ人しらす

山さかもゆふ花のちるもきのかはそめの川なみとおなしかせかな

題不知

春日さきもそなたにさけるふちの川なみてさきみ川せもまたみるかな

名所夏月

前中納言定家

秋清きさきの川やとるかけや秋のゆふくれもとてすむ月かな

洞院摂政家百首暮春

光明峯寺入道摂政

明ぬれはみなせ川のかせはなもたえぬさくらはなは

題不知

よみ人しらす

衣手のなきさの川の水をあさみ我ことゆくとわれはなりなん

家集長谷河「山城」

西行上人

いそくやたちかくるなゝせのかはまて川をわたるらん

正安大嘗会主基方備中

大蔵卿隆敦

ひくちかきりなきかはのせいはいさ川のきみもちよ

家集「みなし川 法興」小字　能因法師

若竹河のなかれてあさきをそれ下りけるはまのすゑとこそきけ

百首歌　重之

みなせ川ありていくつる（注：つくる家）出田をまもりまてゝ守る秋をも

瀬　みなせ

六三　二瀬　みとり河にて瀬かたのなみのちさとをもちなるはまこそ　遠

永久四年百首　萍「瀬河　法師」小字

　神祇伯顕仲

瀬川みなそこまてのうき草のみなさきあそひたる（？）ものゝおもひにはかなき

堀河院御時百首　前中納言匡房

みなせ川すゑとをきかの欲にゆきあひてすみはなれてこそ

仁安二年三月歌林苑歌合　清輔

恵まの瀬の川のうき草は人を子孫もあまりちまかせけり

洞院摂政家百首　前中納言定家

せきとめてみるかひなき瀬川そこもわかれのみおもひとける川

同　後九条内大臣

みなせ河おなし人ここをいまも母のみなもとにこれながれのまもなし

弘長元年百首　同

瀬川まなきの中におもきそこみえしきせまたは人のうちの

　参議雅経

みなせ河みなてやせまし世のなかにいはゝたえせぬみなかみ

以下いはゝいのちあまる人をかへらひけるはせさま

けるとき時そこせんとそよめかとそく

恋哥中

人をのみうらみかちなるみなせ川さてもよるくみくみやいかれ　従二位家隆

家集冬恋　一〇五

浪河のひとひらいでてみるすまいかくあかつきのきさらかなりける　能因法師

久安五年七月山路哥合恋

はきもせぬ浪の川のよれ毎のあふせなきさまよふらや果てなん　西念法師

家集中河

中河よそくく安せりけ袖のうきすれわかれてそあかなり　実方朝臣

此哥いさきやうてんのさいかれもさとよ出さるり

人のわうきしれる逢は涙とて中河よせりわるひけろ

めて流かしけるとそ

家集七夕人はあさくいへて中とけつるま七月七日

たなはたのあまのとわたる中河をとやうらまさかさてきの　為相朝臣

文永元年七社百首

はるさめにすゝむやすまん浮草のさそはれていて中河の　民部卿為家

百首御哥

秋風のやまふきのせのいはなみにあふ瀬なくて露もふれ　後鳥羽院御製

よかもうるやそ宇治川の瀬をもやとて中たゆる橋

御集

　年代

現存

むしれやかよふら川の底すむものあさく思へるとそ

六帖題

　衣笠内大臣

　権僧正公朝

むつさ河きしの柳のかけさへも茂りくはまたちさゝす なり

家寄中　従三位基雅

ゆふ暮は風涼し槙くもつさ河のきし柳 らみたれけり

題不知

住のくめ河りとふ家はむつさ河のなかれてなかれき しる

家集　能因法師

いつかしていひそめきし人をみなそむつさいまそかはる ける

この寺はみちのくまて下りけるにもの原に

あかりまてそこにある橋にはさとれの脇は

作り又河をいむつ河といひならはしといへは

めなれとそ

家集　ゆくへしらぬ人のゆくらん橋をわたすれは

梅津河わたきの水もこほりとおりけるをさまて らむしろ

家集　民部卿為家

さむしろの梅津の河のなみのまもゆるさそむ

題不知　読人不知

宇治川のかけさとせむとそれくらもきさすれおほつかな 昔のちかふ

長承三年九月顕輔家寄合

大蔵卿経忠

みさり河をそうらしの河のなかやきせす我物ひて花をとろ月 なる

洞院摂政家百首

家長朝臣

せむかた宇治の川波さらさらのかのよるかひもむなしき人

千五百番歌合　後鳥羽院宮内卿

物のふのやそうち川の橋もとにしはしとよたにせまさるかな　小字

十題百首　前中納言定家卿

まれに見る岩せの浪に朽はてゝよるかたもなき川風

家集　仲実朝臣

あふちそうちの川瀬のなみさわき立の浦をせきとゝめすらん

禖子内親王家歌合　修理大夫顕季卿

わたつ海に吹きみるゝ瀬の網代木にさそはれてあるなかれの人

河　家長朝臣

宇治川を越して見れはうき川のせにさへ浪のかゝるさゝれ

家集　右兵衛督

うかはよりいつか宇治のやま河

参議為相卿

ちとせふる宇治の河なみすむかへにたえせぬ川の山河

題不知　よみ人しらす

かくのみはうきをうきともしらぬ身のまたあやしくも思ひなるかな

長承寺　後法性寺入道関白

又月あはれ宇治の河さしてきてはかゝりつゝ見るらん

永久四年百首　縁年　源兼昌

もし浪のさわくにやすらふ此こと川のみなかみ

仁安二年無動寺歌合　悪忠

ふるさとの宇治のはし守年ふりてなかれのうたかたはかりなき　よみ人しらす

一九
題不知　續出川　大和　同
のとかなるの梅もあけんとかもまされとハいかなしくも
緑花　同
山吹の花ミるそこえて玉河のいかにさかりのまさるらん
建長八年百首歌合　従一位忠家
みさ山の水はくまたいせはのとり川にこそかかりにけらし
建保三年内裏十首歌合　野田の玉河　俊成
順徳院御製
みちのくの野田の玉川みさかせて月のうつろふ影そ涼しき
大神宮百首御哥
後鳥羽院御製
冬されハ野田の玉川こほりかさねて千鳥なく秋はての宿
家集　秋　六年　野路の玉川　近江

うつろふ野路の玉川さきこすなミに秋風そふく
家集　拾遺　大井河　城
坂上是則
三ねの入江の大井川かはひとつゆきのこしとや
古今八年　大井川　西川のさゆきてのかさゆき江の杉
たとふる人ともあら
建保三年名所百首御哥
順徳院御製
大井河みゆきのあとのかすかにはたかく松の夜かひ
同
従三位行能
おほ井河ゆきのさきかてかしきいろとしぬれぬ月の夜の
六帖題
信実朝臣

大井河波のうつせきの中々にたえてなかきをなかるゝよ
題不知　よみ人不知
大井河ゐせきのいくひうちはへてとのをやなきはいかゝまもるへき
おほゐ河ゐせきのみつくゐ年をへてもまれてもとほるゝ
大井川ゐせきにおとせぬあらしのうへのあはれなるかな
最勝四天王院名所御障子
従二位家隆
嵐の山みゆきをうつしと大井河のおもかけにあかつきの
貞永三年百首
民部卿為家
うら浪とゆく秋あはれの大井河の見てもえてそ
遠江国名所百首
参議為相
波らはえ秋やさらん大井川よさに流るとそ風そ涼しき

月寺中ありきの川　駿河
権僧正承澄
清見かた月はむかしのあはれさのむさしのにてやさこそあらん
海道宿次百首　はや川　三河
参議為相
影とめぬやまかはの水はおもひやるさきやにさそはるらん
河
惟明法師
日の暮におなしや川をこえかへり又もとかへるよくさ
題不知　よみ人不知　おなし川　大和　又備前
おほつかないのちをしらぬ人よかくさきたてられなまもるも
正和二年毎日一首の中　大ちやうか山城
民部卿為家

のとかなる大井の河のみなかみにてひきとめる影なかれつゝ

題不知　よみ人しらす

波こえて刈ほすいつみの河原のみこもりまさりいつもかれゆく

建長八年百首歌合　衣笠内大臣

あくるまて我さへよふかし白菅の井手の河風さむく吹なり

千鳥を　従三位行能

現存六　白浪のいつみの川原のかちちとり帰る夜の月のかけのさやけさ

題不知いつみ川　読人不知

六帖三　はるかなるおほゐのさと川大井川ひとりはなれてなかるゝ瀬々

家集おほゐ川　後鳥羽院下野

おほゐ川みなきはにかゝる埋木のあらはれてこそ君にしれけれ

建保三年内裏名所恵　光明峯寺入道摂政

かけくさはおもしろしおもひかへるみなかみのきよきみるとも

寛元三年結縁經百首　民部卿為家

おほゐ川せゝのしら波いかりのさとまもるらんさやけさ

貞應二年高雄百首　御製

ひとのよをなかしとおもはゝ思ひ河ゆくみつよりもなかくこそみめ

文安三年六月新撰家歌合恵　隆縁法師

近江坂田郡

思ひかねあふせのふちとせかれけり あまの川原のかちのさゝなみ

洞院摂政家百首「おきなか川」未勘国 小字

前中納言定家卿

こほりゐておきつ中河のたえしより かよひしかたのおもひたえにき

題不知 読人不知

ゆかりあれはおきつ中河のたえぬとも きみにかへさんとはてにさめやも

古帖題「草川」山城 小字

衣笠内大臣

夏草のみかくれゆくやとをしらすと 草かりてはこふ草かり河の

建保五年毎日一首中「草刈河」未国 小字

民部卿家

うちなひく草かり河の縄手なみ おちそふ水のおもかけもなし

中原師尚朝臣

なかれ川はやく月の影をとゝめるとて 未国 舟人

春日抄山城

水の面にてる月を見る人やなき 川といふめ

家集ゝつ夜川にて「未国」

和泉式部

月まつやふるさとてみるきよかはにまたみえてあかさむ

題不知「読人不知」未国

ゆくかはと人をみるらん黒髪の衣の袖にかゝれるみなと

同とて「橘津」

人麿

なにはかはせとのみすますこまなれそきみわたりける

同て「常陸」

読人不知

ゆきかへるとなるみすゑゐのまちなけ河きやなり

家集「櫛田河」伊勢 小字

後京極摂政

きみをしるなか川よりやみしきうち かとのまつこそいさなふらん

同くゝり川　美濃国

世中はむかしよりやはくゝり川みなかみとほくすみわたるらむ　　同

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

雲はらふ世をさまりて吹風に萬代いはふ秋のこゑそきこゆる

題不知　久米河　大和　読人不知

見わたせは雲ゐのよそにくめ川のひとことゝ絶て出すきにけり

作集　やまとの川　大和　衣笠内大臣

風さはくたえくもまて流るゝ河瀬のゝふきくらし

家集　風さはく　近江　逝蔵

やとり川のなかれをこえてかはるよのかけさへたえてなきそかなしき

同　続宣朝臣

風さはく川の瀬よりあかしもふかくとの秋の夜すゝしさもなくなるとそ

永久四年百首　樹陰　仲実朝臣

夏の日もかとのかはのかきね柳のしたかけにすゝしかりけり

馬　信実朝臣

からにしきやまとの川のかはよとに夏はすゝしきかけそみえける

若本中ニ入例河舟

現存六

糸竹為和

五月雨に

題不知　よみ人不知

あまの河みなかみとほくたとりつゝ舟をすゝめてのこしてもくる

万葉　百舟もうちみなはてにたゆたひてかもの川こそなかれ

千載

同

ひさかたの雲のかよひち見えねとも舟のいくへかやまとの川のゆきかよふらむ

久安百首やそき河三河　藤参議親隆卿

やそき河くへのはるてくもらは梅にうつれるちよのまとなん

題不知　まきもくの河　大和　人丸

（万七）むはたまのよるさりくれはまきもくの川音たかしもあらしかもとき

六百番歌合　河寒　まきもく河　肥前

前中納言定家卿

いつくさはまたはあはなまきもくの川上にはふけぬいまもとも

題不知　讀人しらす

（万九）とし人のまきもく川によるひるや袂はいつも秋とこそあれ

（同）あなし河わせのおとのいかにとはなとはなきにより早すきにし

（万五）まきもくのひはらもいまたくもらねは小松かうれにあは雪そふる

東山歌合　殷富門院大輔

あなし河川せの音の絶まなくやゆつきかたけに雲たちわたる

永久四年百首　元服　まきそめ川　志摩国

俊頼朝臣

うなゐ子のはなちのかみをときそへてまきそめ川にけふそみそきつる

題しらす　読人不知

（万七）白妙ににほふまつちの山川にわかうまなつむ家こふらしも

百首歌　従二位家隆卿

神人やそのみそきは出つる浪のしらゆふかけてきよき

御集　まつ人のかは　相模　鎌倉右大臣

大かたのまつ人の川瀬をもわかぬなかをもまちのまにけり

此歌は二条院讃岐下向にまつ人の宿のまつ人又まつ人

かはといふ河をさかりて水そさかりにけり月くまて

ゆくへわかれし時よめるとそ
むかしこゑありきける人まかりける人物しときこえて
「かはせかは　夏」
袖にまてすまりし物をかはせ川のなくさめのまたひけるかな　修範朝臣
題しらす　山ぬまき川　読人しらす
水茎のかきなかせともなほあかぬかはをなきさにとふそおほかり
六帖題「いつみかは　未勘国　大和」　正三位知家
新六　いつみかはのへにつくしもかくれつつわかおもひそむのすゑもとほれ枝
承久四年卒爾百首春夏
民部卿為家
春雨のいつみかはなへ人のゆきをはとしやそれてはれまのなきなみ
家集くまの山ふしへ人をもちいてならひのそみけり
「あら川　未勘国」　西行上人
なかれてはひとまのせよにうつりぬときおもはすもこなたみえけむ
家集「かはせのかは　川前」　元真
まつはきくかはらにさへのいかにおちなりけるをしたひきてうきたるかな
「円川　駿河」　好忠
夜かへのかはせのまちにて人をもこえやはらかなれ
定文家歌合　深養父
みなれてしかものいつみのあれもさき世なく恋しき
延長五年定文家歌合不遇恋　祐恒
「かは」
わらんともおもひしかとも中川のなかにゆくまにおもふかなさつも
題しらす　よみ人不知

六三

笛川の世々ましむ遠くさまかはと恋しき人のかけそみえて　祐之

建長五年毎月一首中

民部卿為家

吹おろす宮こをみましさもさくさ南にひくよの河風

建長八年百首歌合「笛川」　伴坊

後九条内大臣

袖まくらつくしや世々の笛川の竹よりなれる竹のふしかな

此歌判者光俊朝臣云笛川の世よりなれる竹のふしをしりてめつらしくこそ侍れ文選長笛賦に龍鳴水中不見已截竹吹之声相似といへり今此歌を思へはこれもこれ優美ならすとそ

松造河といふ事「衣川　陸奥」

西行上人

衣川汀によりて立つ波は岸の松が根あらふなりけり

建長七年顕朝卿家百首歌「こひせ川　未国」

従二位行家卿

山ひくく波の世河のふきさうしまみさたくやなみならん

嘉禎二年十月日吉歌合久恋「こひせ川　既出」

従二位家隆

恋せ川はやきせよりも川水のあさせをせかれぬ涙なりけり

題不知「こひせ川　山城　河内」

読人不知

恋すいくまたのみせなしこひせ川の世のすまくやきの　玉（六）

五月雨をこひせ川「山城又近江」

従二位行家卿

巻廿六謡宴復　六三

又羽衣まいのまゝもせんところ河からふ人のたつ瀬も
なし

家集　寂蓮法師

余所（よそ）にまて山人もしらぬこほり川こやさ夜ふけておもひたつ
そそ

題不知〔氷川　良経又慶雲又備前〕　讀人不知

打寄て水もむすほえすこほりのひまもなきはよしのやの
人

夫木抄　同

〔弐元〕うちさむき月のかりにさやけくてこほりのひまは氷そ見ゆる

後朱雀院女一宮承平四年三月祐子内親王
家若不一首合氷河　陸武部〔誹〕

こほり川みえわたれるこほりくらしてなかきよもおもひそとさき
ことし

同　紀伊

冬くれはふきせもとおす氷川にうきたかみとみとまもられは

百八
題不知〔あさきの川　続紀〕　讀人不知

冬まへにきはあさきの河をとふこれは今代まてをすきこそ
やも

弘長元年百首　後九条内大臣

すゑはるのはなきのかさのまたおきはきの川まて水うかららん

題不知〔河とふ音跡又河便近江〕

百七
あらしふくとのそみよ河のなりてやまかせ吹はしらなみ　人丸
あり川やさき

同　讀人不知

百七
冬の河のおとはいはなみさえけりともまれは物思ふ子か床のうへは
そ

家集　好忠

いつしかと河とのやかはきえとめて今年も秋をまちつゝ
見しとも　和泉一（八）
女人

弘長元年中務卿親王家百首　権僧正公朝

たかせのつなてはなれし舟ともなくおとはかはらの岸をゆくらん

承久内裏哥合　なとり川　「陸奥又武蔵国」

大納言雅定

せきとめぬ人めはゝみとよせてなきなもやなとり川なみ

承安二年東山哥合　隣川寒

大宰大弐重家卿

あふせ河神はたくせる瀬も今そとてひゆるさむきはらえしてまし　ら称

題しらす

前左盛方朝臣

行とれくふりそこの後ろあふせ河さらにはやせきなからん

海道宿次百首　あしから　相模

参議為相

ひとよともたのむ山のあまくもはむたらかはてゝるかはらの浪

題不知　おもひ川

読人しらす

世中はおもひきるゝのかしこもさらに計をわたりゆくらん

同　あその川　下野

同

しもつけのあそのかはらよいしふますそらゆときぬよなかこゝろのれ

万十四　志母都家野安蘇乃河泊良欲伊之布麻受蘇良由登伎奴与奈我己許呂能礼

六帖題　あまの川　河内　又七夕ニ在

光俊朝臣

新三ト

よのそこにかふきしあまの川かさのへゆきゝのはしのわたらし

最勝四天王院名所障子　交野

如願法師

鏡ゐまち交野の秋草わけてもみちはうつるきあまの川風

家集　能宣朝臣

わすられんいそのまつくひろせなるかはの川原のかひはくらへん

同　神祇伯顕仲也

わきもこかうへの川のをともちくよろみ川ろのさくのえ

影うつるわたり川　大和みちさし

同　よみ人しらす

やし月いつまさとくまするハせて渡しそそし

長哥　人丸

飛鳥のあすかの河のかみつせにいしはしわたししもつせに

うちはし渡しいしはしにおひなひける玉もそたゆれはおふる

同

とふとりのあすかの河のかはせはやみ下つ瀬にかくるやまの

せきかくる玉もぬるかり

同　よみ人不知

神なひのみもろの山のこのまよりひとりすむかはすめる河のかみそ見えしも

建長七年顕朝家千首哥　光俊朝臣

こしの山神のあひかせおとの河おとせにかくるなちせ

百首哥河五首中　旅かけ　為信

藤原為顕

されはいつもいはまの川かせぬるこそ春ぞくまあり

家集　伊勢

わかれもゝるをみし津のあくた河おくるゝ人のなきまにまかせる

六百番哥合寄河恋　ありなかし河　中納言国

△日本紀ニ新羅

法橋顕昭

きくやいかにうなゐか川の水かけてそおもふこゝろあさからぬかな

和泉式部

家集

あさりしに雲をまとゐすさめかきやあるかきこゆるのかはたえく（こも）

法印永海

冬寿中おのかい「伊勢」

神風やいせちをゆけはみそきするあの河原まて千鳥啼也

千五百番歌合「いさの葉川　未勘国」

前陽明門院越前

△備後国那賀郡

御禊するいさの葉河の風ふけて秋をもよせくるなみの夕哉

読不知「いさゝ川　備後」

よみ人しらす

綿はさておもふ手引しある河瀬そ袖まみかくなかれ（る）

御集「ありそ河　八雲云法院和　山城又伊勢」

△三月三日流觴不見

西家入道関白

ありそ河松のこひめのさきをみてちりをもいやしきのとはぬかさ

家集小野行幸まては東院の色をまて錦ひけり

頼恒

なにとなくやいさの宮のありそ河ゆくへしらるゝなかれなりけり

家集

同

いさしらぬ文に添へて禊はありそ河ゆるさぬまゝにかくれましもなし

堀河院御時百首あり「河　大和」

仲実朝臣

公實

みなかみはさきこそみらしのあすか川ひさしくなりぬこれなかれそも

題不知

人丸

万七

おきまもくあすかの川にたちわたるさかきのかけはかりそん

家集　従二位家隆卿

ゆきすくゆつきさゝけの雲さえてあふくま河の瀬わさかなり　せり

建保三年名所百首歌　あふくま川　陸奥

順徳院御製

あふくまにおもふ河の瀬ゝみまきれすの秋のころやかれこらん

同　前中納言定家卿

あふくまにおもふくま河の音のまゝ秋をやそらにあせきとゝめん

最勝四天王院名所御障子　大蔵卿有家卿

冬の来とおくやちきりの夜なるらむかれしくま河の絶ぬみさひ

題不知　あきつ川　大和　読人しらす

万二八

みよしのゝあきつの川のよろつ代にたゆる事なくまたかへりみむ

千首歌　民部卿為家卿

さても猶何ゝまてとめはや我身のあきつの川のあさきせま

洞院摂政家百首恋　従二位行能卿

みよしのゝあきつの川のいつまてをとめのまとくいとひと人のさためも

題不知　さゝし川　信濃　読人不知

六三

人の子まさらしみかいぬまてさかあまたせし物おもくま

新勅撰四

同さほ川　大和　大伴郎女

万四

さほ河のさゝれふみわたりむはたまのくろのくる夜は年にもあらぬか

洞院摂政家百首氷　常盤井入道太政大臣

あさてかむとさほの川風さむからしこよひをとこのあはてのたると

家集　氷

夫木上郭冬廿某

氷さほの中河上路

後鳥羽院

せきかねしさの中河はらくぬるく井くみよ波の音はけせ

百首歌五月雨　神祇伯顕仲

五月雨はいくかに成てせきもせしさの中河舟かよふらん

此哥は式部卿堀河院百首注し一勘し

建保二年内裏十首歌合　さの川　未勘国

後久我太政大臣

風はなひくさの川波打なるきもてなくらふ立乃ろ

洞院摂政家百首　従二位家隆

あさからぬ思ひもさしとりろさくあのこ方りぬくゝかなふ里人

題不知　さの川　山城又大和

読人不知

年経つゝ思ひしはしまい深田川やかてつくれなかれせさる

さゝら河神はくたりあさきせやくまみやへのあさ川瀬と

家集春哥中　従二位家隆

いさゝ川ちりはなさそふ中絶てかすみをよする春の暁

家集　好忠

さいさ河あさきせてしみをみてすくみすよせみ世隔しせ有

いさゝ川せての埋木あらはれて行春の浪

寶治二年百首浅宮　正三位知家卿

いさゝ河ひとのつかぬまに神はくひかなきる雪

あめつちのわきて上下をさてはめしるされ河　未勘国

順

世風さや三五月夕河の水もたえさうきよをわたる

長承三年五月常盤五番哥合　兼題迴流

「さゝ浪川」　源淳国

こひわふるよのなみたのなかれすゑをさゝ浪川のせといふらん

建長六年毎日一首中

民部卿為家

きゝわたる若さへつらき逢坂やさゝ浪川のせゝいかにせん

題不知「さゝ浪川」　読人しらす

年毎にかゝりし路は浜川こゝやたえてつきてはせさらん

楢川

二条院讃岐

さゝ川になゝせにすゝむ舟よせはさゝめることゝかゝるまにてもよしや

御集「さゝら川　いろ」

中務卿のみこ

秋の夜は月をなかるゝさゝら川花にはもみちよきをとかし

文治六年五社百首「さゝら川　山城」

皇太后宮大夫俊成

五月雨はいなのおかやまふきまよふさゝら川浪はやくもこそまされ

文治三年十月春日社哥合

成家

あのうらにてさなくしきさゝら川光ひたすらかゝれたまの白玉

家集冬三十首中

従二位家隆

宮路のさゝのこのきゝさゝら川すゝもはけしき浪の光

文永六年毎日一首中「清滝川　山城」

民部卿為家

山すそのあきはむさゝら川の水のはさすさきにかゝれる

建保三年名所百首　僧正行意

新続古今
ちりそめしけさや水にうつるらん清滝川のせゞのしらなみ
建長八年百首哥合「きよたき川」山城
従二位行家
見わたせはやまのいくへの紅葉のきよたき川にいろますらし浪
家集
鴨長明
かさゝきのはしもとゝはぬきさかた川みつもとほらぬほとのこゑ
五首哥合水上月判者俊成「きさの小川」大和
智海法師
よしの山みねにとめたる月をそめはきさの小川にまたすみぬらむ
家集「きさの川」紀伊
法橋顕昭
あさからぬきさの川上水をまつせゞのしらけにさはくなり
名所百首中菊川七夕「菊川 遠江」

参議為相
波に今こゝろしてをいや菊川の名もたちかはる今の
文永元年七社百首石清水「きよき川」未詳国
民部卿為家
とにかくに人のいのちのきよき河かけあさくとも時をまて
三百六十首中「きよみ川」摂津
衣笠内大臣
きよみ川いつみのをしほそていせきをゆるめ今も
万七
読人不知「結河」未詳国
八雲御抄(万)
まろ神のいはそてもちてゆふなつ川又くらきんかゝる代まてに
雑哥中
献 鉄慧法師 献
ゆふくれは浪ちをさらくあまをぶねこきのいさの舟あらそひもなく

題不知「ゆめさきハ豊前」　よみ人しらず

朝さらすまちさせしゆふへゆかしとも君はいつまてあらん

豊の国ゆめさき川をさしてそ

夫木

ゆきてもあるといふまてまてゆめさき河をまたまかさらん

壬生忠見

太宰にまかりてくたりけるにゆめさき河をわたるとて

太宰大弐高遠卿

春の来のゆめさき川と清まさる人まつまさき

弘長元年百首　めつ〳〵川　肥前

我かみよつ神代よりまもる玉しまやあつけはのむかしおもへは

題不知　めつ〳〵川　大和

読人しらす

六三

紀の国の三ふね山のみさきにあるせし人をとふみさを河

新続古三輪川　大和　俊恵法師

みわ河の清きなかれにすゝきてゆめまたらんとや我はおもひし

洞院摂政家百首

五月雨に水はさからし三輪川のいはせのいくひ波もくもり　民部卿為家

家集十八首述懐　同

祝はいくとせ君をいつまてみわ川のさてつかくまほしくいろ

堀河院御時百首　仲実朝臣

いそかみ水まさりゆくみわ川のきよきせゝのもえさやけき

文永元年七社百首　春日「三輪川やまとハ大和」

民部卿為家

うちわたす氷のひまのさゝ波や春日をまつ波やさらん

題不知「みやのせ川 未国」　読人しらず
うちひさすみやのせ川のかほ鳥のこゑてなれらんきえもこらぬ
六帖題
うちひさすみやのせ河のせをはやみこともむすはすとしそへにけつ
家集「こまの川 摂津」　馬内侍
かりそめにこころをかけてくみし河いまはのとかにすむらむかは
題不知「かたせ川 伊勢」　読人不知
あくら山いせちよりふみせかいのこゑやかはかはるらむ
家集「こひし川 山城又大和」　慈鎮和尚
たえすきよきすむをとこそはしめにたえし河のそこにみるなむ
新千載二
同「ならす川 伊勢」　藤原清輔
神風やいすゝ河のきよきなかれにたえしとそ

正治元年十月哥合　後京極摂政
神風やみもすそ河は数しらすあまのしるへにうつるよをみむ
題不知　読人不知
たえすもそのかはをゆくまそみをもすそ川のこゝろはなしとも
建保三年名所百首　従二位家隆
あつひきのいとしてやそよ永日のみをますそ川ちよのよもちむ
同　従二位範宗
まつはれいろみひくるるをやちよまてかはらぬますその
御集　後鳥羽院御製
人目のみまのえにしいくよかみそすそ川のちきのちき
家集題を　源有仲
おとこもよ衣みをすそ川のこやきみよまたちたえ海

永久三年五月太神宮祢宜哥合詠

読人不知

君か代は神のこゝろにまかせてそすゝ川のみなかみを

依楽寺河邊たくき川逢ひみて

法性寺入道関白

思ふ事水くきのあとのまゝにみゝすまし人よそせや

題不知

伴保丸

まくらかみ丹後の川原のいそのこしまつらんかまくらのふち

永久四年十月日詠之宜人不知一首哥合こそき

川逢河

読人不知

年ふれは河のかみの神をあかしかみそきかはすみてきよき水

音たてゝ野なるやまかくれはしらぬ河辺の風はすゝしかりけり

題不知三年川　大和

丹

世中はうきそとまれはみかせ河さこそはあせてそはなれゆく

承安三年閏十二月東山哥合隠川

みなせ山みちもさしにくゝとつてへ瀬はやくとまかせ

前右中経

堀川院御時百首

前斎宮河内

いそけともまつらふや河はなきせ川人の心のうき

東山殿五首哥河邊

光俊朝臣

君かすむこゝの川の

読人不知　山城

百敷の大宮

家集　　みなせ河

みくさゐにきけいおもしろかはみさはかくれかはまたはなき

おもきのおもてもゆくかはしらむかく

元輔

耳なし川風を万代のあつまりはしもこそ中は淵わたらめ

題不知「みなせ川」　相模

よみ人しらず

ながれこし神はいさやく絶えずのみなせの世河は[illegible]

後鳥羽院入道二品親王家五十首

野宮左大臣

東路やみなせの世かいまこそ塩のひるまもたえ五月雨のころ

建保百首中　水無瀬河　霞

参議為相

塩みちてやさしさはみちぬらんみなせの世かいのおくもみなせに

嘉元三年□□百首

従三位為実

今宵は波の上にもやどるらしみなせの世河の秋の夕霧

百首歌中に「みなせ河　接[illegible]」　慈鎮和尚

[illegible]かはし月[illegible]みなせかはれ秋の松[illegible]

家集「湊河千鳥」　前民部卿雅有

[illegible]川[illegible]風[illegible]

貞応三年百首歌　川寒芦　（藤原京欤）

民部卿為家

秋をかさねかけくかはの湊河さし入るよもこそ[illegible]らん

貞応二年六月南庭百首　河落葉

同

こきまぜし秋のこの葉の湊河こゝらせの波よにけきさらむ

題不知　こゝろせ川　山城　又摂津或大和　詠人しらず

恵まれぬ人は老すらみなせ川下まさるとも月はなにとよ

天仁二年十一月顕季家歌合　為援

保俊朝臣

ひさかたのみなせ川原の清くゝれなるせをまきてぞきこえ

家集　元真

水無瀬川なかれても波の水くきのみてぬさこゝろは絶なり

題不知　詠人不知

庭ひなきふちはみなれやよの人のみなせ川といひそめけん

堀河院御時百首　藤原基俊

みなせ川おちくる水のさまきてたる人ならば波もさく

御集　後九条内大臣

水無瀬河さらせ吹まく山かぜにいさなみの波の花さく

最勝四天王院御障子

後久我太政大臣

あらさきの下露水無瀬河秋

同　参議雅経

庭のまゝも山ちの菊をこゝろせ川の花の風

同　具親朝臣

波のせはけきてもなし

家集五月雨　寂蓮上人

みなせ川せきのかよひち水落て舟さへわたす五月雨の比　ミエイ

家集恋歌中　俊頼朝臣

流布本无
こひわたす人しれぬ身のみなせ川あさき心をたのみこそせさらん

万五作者不詳
題不知　人丸

まこもかるのもとのむさゝきのみなせ川こえゆけはこれ何の心やまめ

読人しらす　わかる人に

古今十二恋二
ありぬへくこゝろみてしかみなせ川たえん日しれは我も恋やまめ

新古恋二
百首歌召ける時　従二位家隆

みなせ川ものおもふまゝにしはしまたかくしつゝ人のまなくそくらん

題不知　白つゝし　山陰　人麿　深草院　読人不知

古今
あさからぬ契りしこひはみなせ川ゆくへしらぬもおもひそめけむ

こしかたも水さへすゝしきみなせ川のいまゝたもかはるかな

あひ見ても庭まてもしのふ心はなかなかにこえわたるらん

同　貫之

家
ちりくる花のなけはうつりつゝともにかくれみなせ川のさえ

此歌は延長八年ときのくにゝくたりて承平五年に京にのほりてたゝ大臣殿白河殿にありけり時あまたよみて此歌はわれにやとそ

たよめけるとそ

三百首歌よみける時　中務卿のみこ

まきのほれさの河にちかひなりにしかりしあらひのつきはかり

百首御歌　順徳院御製

明ほのゝやよひにわたるそらも人のかとそ見ゆる

題不知　廣瀬川　山城又やまと

一万七 ひろせ河袖つくはかりあさきをやこゝろふかめてわかおもふらん　読人不知

六帖題むつき　山城　衣笠内大臣

ひろせ川まつにかよへるおかいさゝちるこそまされみねのしらゆき

嘉元四年十月当座百首　嵯三位為実

時雨はいつそかねともまた山ふかみからふ(？)ひろせ川かはのおと

よとミ(？)にはよそ人

年をへて袖ひつ(？)ひろせ川やまさに寒き人のかけぞ

宝治二年百首　ひろせ川　河内又秦

光台院入道二品のみこ

あさきすひめくま川をいそくとてけさつまとめにぬれそあかぬる

六帖題又立　権僧正公朝

はまこめて八重うつ雲のさやかにもひめ川上のゆきさらに

弘長元年百首　ひめ川　未勘国

後九条内大臣

あめはれぬし若葉のうへにのこるつゆまさるみとりの

西行上人家集　まつ川　陸奥出羽

崇徳院御製

もかミ河はやくそひくともいな舟のしはしはかりといひわたるさん

此歌は西行上人ゆかりある人のかたやうちまかりて

まかりさりけるをゆへしらすにかへきありしそらしてよみて

けるおりのよみてつかはしけるとそ

一

涌出品　西行上人

はなくらくはなてしみせよまつさ河そのいなのはいなのわたりさそ

かくそれして佐(?)金(?)の程すくらゆらしなるとて

隠居百首哥　民部卿為家

まつ河たやせまとゑろまし毋のいでこぬろへきこの世とやらろ

家集　元輔

流布本无

もろこしへいのやしまのつるりてこき大舟もあつかゆくさよしとくらん

題不知　かろもの河 但馬　よみ人不知

田をしるもらせの水わくる岡邪もとるすらひとさらん

家集　はしせ川 未勘国　太宰大弐顕輔

岩のうへてさてえおくしとめる世河のゆくしき世代へまさてとよ

歌合中　せきのふち川　為家

[illegible]

はなへきちまちいもまなひきつよいめなせきの下にかゝる

常盤井入道太政大臣

建長五年毎日一首中　国まてよせ

民部卿為家

せれさいのまやなきてもりかひまもこひとさら

海道宿次百首　参議雅有

おまくいもろくさらさ河上のそいまゐりてそゆく

六百番哥合　恋せのたとらい山城　法橋顕昭

石河やせゑのをかはいくつさて猶さしおせい波すまむらん

弘長元年百首　従二位行家

いしかはやせえのをとの流て今をさしあかをのみくし

三百六十首中「すゝか川」　好忠

ゑみなみやせゝの河せによやかさしてらつゝすなをいさりすゝろ

題不知　すゝか河　よみ人不知

すゝか河ふりをそせまてゆくへもしらぬ人はかりこそよみても人をまちしらるゝよ

建保三年名所百首　前中納言定家

すゝか河やそせのさゝらなみゆくみてそ君か代のなかきをなみのよの月

家集　忠峯

若ていとまもしらぬかものかはせのくさのさえかもわれ

題不知　よみ人しらす

すてつゝ人もなきさのよるなみのしかしくもきらは涙くなる

建保三年名所百首　すゝか川　伊勢　大和

こゝろえぬ年をさこえしかのとさむきみのかはれの月け　順徳院御製

同　僧正行意

都をすゝか河なきにまかせてまれにすゝかやゝ人まれ

同　前中納言定家

水くきのゆくきをすまて河にさしてやゝ人もといひこす

同　従二位家隆

月のまのさすやいかさしすゝか川おとまちや山のはより

寛治二年百首　波月　正三位知家

角田河おるかはなきのゝらさせよりてかはなきてむかしのよ

家集　家長朝臣

一 いはそゝくやまみつ河原のいそ浪くたけておもふ身とおもひける

題しらす　よみ人しらす

六三 いてゝいるおほそのせとの十すゝ河みなせてすむ山やまに

湖

みつうみの湖のいりえにちるさくらをいまおほてさのさくらめ
衣笠内大臣

同

さゝなみやよるよるかよふみつ湖のわかきそたもと
信実朝臣

同

滋賀のからさきせさきみちのくれ神のまつりにかよふ
従二位行家

柿本新続百首歌
後九条内大臣

あきかせのすゝしきかなや神まつるのいそにもちいてよせくらん

題しらす　よみ人しらす

一 神まつるひとのみちゆきさくらのいろにほのかにてのちや我かこひ

嘉応元年宇治別業歌合
寂蓮法師

同

池水にもとのみかさをいはふすゝのみつのこゝろ

瀬

六帖題
衣笠内大臣

新 いつも河ゆくせのなみのさゝれいしにわかれてのちのしるし
従二位行家

同
信実朝臣

月ことのみそきにうつる水のせとまちかきよにうつりてもせん

遠所十首歌合
後九条内大臣

秋ことに[illegible]川[illegible]

建長八年百首歌合

光俊朝臣

舟人のやすらふせきにこきかへり[illegible]

六帖題

同

天の川みなとやちかくなりぬらんひろせ[illegible]

百首歌に山吹のせ　山城名所

順徳院御製

川なみのそことまるつら山吹の瀬のなかれの[illegible]

家集　いはせ　大和

伊勢

みなれ[illegible]山もみえ[illegible]のあさ[illegible]いはせの川も浪さはくなり

元永元年十月

俊頼朝臣

いはせ[illegible]

六帖題

衣笠内大臣

五月雨はみちさへ[illegible]大井河いはせのなみを[illegible]

いはせのさきこのもかくまあしの[illegible]

家集　あやのせ　陸奥

能因法師

あやのせにみちのおくしき[illegible]

此歌はいとよくて[illegible]

沼

沼都

百十九
あしひきもかこまし海せハ水なゐもとくみぬまを花はなしつ　讀人不知

家集　あさかのぬまをよめる　萬歳

ぬま水をこほりよるにしらぬこの山ちをわかかへるやまかくしへ

西住昔百首　法印　式子内親王

うくもまいてくらぬまのうきをたれくもろ人ならてさくらの袖お

建長八年百首歌合　衣笠内大臣

まろ神はぬまをなしをちよよまは人あしまのつ草のかくれてのと

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

奥山のあまのうきぬのあやめ草ひく人なしに残やすらん

家集　民部卿為家

萩りも野草かくれの沼あらと人まちせて帰るゝれ

堀河院御時百首　漁津沼　大納言師頼

かきつはたあさくハ小野のぬまよりけとかけしきさゝきや

同　権中納言師時

思ひきや浦ぬまのうきにたとふもえ人なしに残

同　仲実朝臣

まさかりて若りまくれかいさくれいてのぬまよりゝすかへ

修理大夫顕季家集　恋の心をよめる

かつまたやぬま　上野

同

葉沼のかつまたのぬまのかつよしこれさこそあすくせなみて逆

上野国哥「いかほぬま　上野　清真」

百十四
かミつけのいかほのぬまのうへこなきかくこひんとやたねをもとめけん　扎（利）

人丸

建保三年名所百首御哥

順徳院御製

逢ことはいかほのぬまのいかにしてなみたのいろをさへしら（ん）

同

信実朝臣

百十四
こなきつむしいかほのぬまのあやめ草なかきねをはいつかひきみん

同

正三位知家

いかほやいかにせよとてたちまよふいかほのぬまのいはかきしみつ

同

前中納言定家

衣析
かくてなほいかほのぬまのみきはなるあしのうきねのあやめをそひく

同

藤原康光

水かけしぬまのこゝやちよのいかほのぬまのかけなるうきたりは

同あさかぬま「清真」

従二位家隆

花かつみさくらの鳥もなつかしのぬまのみくさのかけにあらん

家隆実にさし名所の障子

後鳥羽院御製

さくらけしあさかの沼の花かつみかつみる人もこひわたるかな

東宮女御哥合ゆ屏風哥

元真

ゆくすゑをあさかのぬまの花かつみかつ見ながらもあかぬ頃かな

山井家集云みちのくのあさかの沼のはなかつみ

京から人さらにこまたり

金葉雑上

堀河院御時百首　大納言師頼

さよ中よやす人はかすしころのくれあさの沼は持掛しまてしもす

よみ人不知

かこ浦きのいまいぬまのむくぬくさなきそまみによいに海まれ

百首歌中　順徳院御製

逢事いつかとれ沼のむくぬくさよあやこひ人神いふ

貞應三年百首　民部卿為家

むかしくさ浪をうへままそなりはん

天仁二年十一月勝間家歌合　菖蒲

よとの沼　山城

よみ人知らず

又庚申の人のあやめをつくるもくりよとの沼よこひもろ

長元八年閏白太大臣家歌合

祭主輔親

あやめ草さつき待てそひく人もとけ

建長八年百首歌合　滸沼　山城

光俊朝臣

いつまけさ遠のこ沼のこほりにをもおもひなりつ

永観元年九月廿大臣家の屏風　大中臣能宣

元輔

寛治六年五月宇治通家歌合

藤原公房朝臣

ひくらしや風さへ大かれ遠のぬまのやさしむも

天延元年内裏屏風

ひく手あまたなりと千代のまくみ沼よむもめい

おいつの沼

流布本家集ニ

あさりのさくへのなまゝ小蛙なく春のみとりそなく成人　元輔

長暦一品宮歌合　たまの沼　相模

まきしはやたまのぬまの菖蒲草けふひくくや千代のねそこれ

家集　かつのの沼　大和　同

あくせよかつの沼の菖蒲草ねさしは神のかけてたのまし

建長七年顕朝卿家千首　沼春駒　源仲遠

春草のかりかりにたつかつの沼の駒やとみゆらし

あはれすむ小くさりける[illegible]

源光行

かきねは千々の葉[illegible]の[illegible]りもはるさきの海

此哥後次を記せる所に後の奥書につくらるを

もくせそ[illegible]に[illegible]しれぬ[illegible]東西

[illegible]千沼あり布をひけるとし

山にとりをひとして[illegible]水もひとりさあ

かりそ[illegible]とまさきにしてもきさる[illegible]

[illegible]さきて雲の波[illegible]のきさ[illegible]眺

[illegible]雲[illegible]のの

[illegible]さりてとそ

海道宿次百首とき[illegible]海[illegible]て[illegible]

参議雅経

水ちる[illegible]のいまいろのさくらの[illegible]

延慶二年定文家歌合緑沼萍

「こもりの沼 未勘国」 よみ人不知

みこもりのぬまのさくらもしらくものにごるなりけり波の

紅よもしらしもこのみどりのしたはさていかきねるゆめ

永久四年四月鳥羽殿哥合 菖蒲「あさかの沼 未勘国」 仲実朝臣

あさくともあさかのぬまのあやめ草ちよのためしにひかんとぞ思ふ

同 家俊朝臣

君か代はあさかのぬまのあやめ草もまたぬくさまなく

「名不知〇〇しる沼 未勘国」 よみ人しらず

忍ぶれど名を知りし此沼のあやしくいはすとも人の

家集「〇〇の沼」 好忠

〇〇出てく人もりぬへきこのぬまをわれもまたしてつれなき

旋頭哥 武蔵国 哥「おきさきの沼」

さきをおきまのおさきのぬまのまさをそへ

ありとけるもあとをえしすとよけし

寛永十七年六月以他本書写了

110X
495
21